

平成30年度

単位施策評価表

所属 28400000
建設部 公園緑地課

施策	2201 公園緑地の維持・整備						
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	無	受益者負担	適正	
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有	
対象	市民全般						
施策が目指す姿	総合運動公園の改修をはじめ、既存の都市公園等の適正な維持管理や長寿命化に向けた取り組みを進める。また、つがの里については、魅力ある公園として再整備を進める。						
成果指標	①一人当たり都市公園面積…5年間で12.6㎡（現状値12.0㎡）						
目標達成状況			平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	成果指標1 [㎡]	予定	12.12	12.24	12.36	12.48	12.60
		実績	12.15				
	成果指標2 []	予定					
		実績					
		単位コスト					
	成果指標3 []	予定					
		実績					
		単位コスト					
	成果指標4 []	予定					
		実績					
		単位コスト					
トータルコスト (千円)	予定	591,445	500,880	614,572	0	0	
	実績	588,999	500,880	614,572	0	0	
内部評価	貢献度	「居住環境の整備に対する市民満足度」を向上させるため、都市公園の整備・維持管理及び老朽化公園施設の改修が必要であり、本単位施策の目標達成度による貢献度は高い。					
	達成状況	新規都市公園は未整備であるが、開発等で帰属された公園面積を含めると1人当たり14.24㎡であり目標を達成している。					
	課題	本市の公園については、供用開始より永年経過した公園が多く施設の老朽化が進んでいることから、計画的な維持修繕が重要である。					
	取組方針	老朽化した公園施設については、長寿命化計画に基づき計画的な維持修繕を行う。また、公園施設の調査点検を年2回実施することで、適切な公園の維持管理を図る。					
外部評価	各運動公園は施設利用に加え、ランニングや散歩などの多くの方に利用されているものの、一般の都市公園などは以前と比べ、利用者が減少している印象を受けるが、この背景には少子高齢化の影響や、市民が公園に求めるニーズの多様化等も起因しているものと思われる。今後においては、子ども向けの遊具に加え、市民の健康保持に寄与するための遊具（器具）を設置するなど、多様な機能の確保に努め、一般の都市公園等の利用促進を図っていくべきものと考えます。 また、公園利用者の満足度向上のため、トイレの洋式化や清潔性の保持、遊具等公園施設の安全性確保に努めていただきたい。 つがの里の公園整備については、十分に費用対効果等も検証し、慎重に進めるべきものと考えます。						
単位施策達成のための事務事業	事業コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度
	440101	都市公園等管理費				121,254	100
	440301	栃木総合運動公園管理運営委託費				176,977	100
	443101	栃木総合運動公園施設整備事業費				5,923	100
	443501	太平山県立自然公園施設整備事業費				13,169	100
	445401	生垣設置奨励補助金				846	100
	748101	つがの里総合公園拠点整備事業費				7,972	100
	761701	栃木総合運動公園陸上競技場整備事業費				111,500	100
	763801	国民体育大会関連施設整備事業費				70,907	100
	763901	都市公園等バリアフリー化改修事業費				4,445	100
766401	公園施設整備事業費				3,864	100	

単位施策評価表

所属 28400000

建設部 公園緑地課

[illegible]

単位施策評価表 補表

施策	2201 公園緑地の維持・整備		
区分	妥当性	妥当	上位施策の目標を達成するために有効である。
	コスト削減の余地	有	公園施設等の維持管理が主である為、コスト削減の実施は困難である。
	受益者負担	適正	使用料等の負担割合は適正である。
	上位貢献度	有効	基本施策の成果指標達成する貢献度は高い。
	類似事業の有無	無	代替事業はない。
	成果向上の余地	有	今後適切な事業を行うことで、公園の適正な維持管理が見込まれる。
内部評価	貢献度	都市公園の整備・適正な維持管理及び老朽化施設の改修を進めることが、本単位施策の目標達成度向上になるため貢献度は高い。	
	達成状況	「市民ニーズに応じた公園に対する満足度についての指標を一考願う」とのご指摘をいただいているが、指標化のためには全公園の利用実態を利用者数調査およびアンケート調査等により把握することが必要であり、現在の管理する公園数(312箇所)を勘案すると全公園の調査実施が難しい状況である。	
	課題	平成27年度末現在、供用開始後30年以上経過した公園が全体(298箇所)の2割に達しており、今後公園施設の老朽化が見込まれるため、計画的な維持修繕を必要とする。	
	取組方針	平成29年度に策定した公園施設長寿命化計画に沿った、計画的な維持修繕を推進する。また、公園施設の調査点検を年2回確実に実施する。	